

夫立会い分娩の経験別に見た育児への関わりについて(3)

母子保健研究部 千賀 悠子・堀口 貞夫
" 水野 清子
児童家庭福祉研究部 望月 武子
研究協力者 曾根 秀子
(総合母子保健センター保健指導部)
佐藤 禮子・中野 恵美子

要旨

目的: この研究は、伝統的養育システムや養育環境が急変していく現代にあって、子どもを出産し新しい家族を形成していく夫婦が、親として・夫婦としてそして一人の成人としてどのような意識の変化があり、どのような役割を担っていくのかを調査。

調査内容と方法: 子どもの出生後1年間の親の育児、子どもとの関わり(愛着行動-あやす、抱く、話しかける)、子どもと一緒にいる時の親自身の気持ち(子どもへの肯定的感情)、子どもが生まれてからの生活の変化への適応、パートナーとのコミュニケーション、パートナーとの関係や親密度、自分自身の自尊感情などについて。子どもの出生1カ月時、6カ月時、1カ年時の計3回継続して同一の調査対象者に郵送調査。対象は、東京-愛育病院で出産をした夫婦320組。今報告は子どもの出生後1カ年時の父親のアンケート調査結果。集計対象数は98例。

結果: 対象全体の1カ年時の傾向は、子どもとの関わり・子どもの世話などをよくしている。子どもへの肯定的感情も高い。立会い分娩の経験別に検討すると、立会い分娩群は対照群に比べ子どもとの遊びや世話をよくしており、動きのある遊びが多い。子どもへの肯定的感情得点も高く、子どもに対する関心が全体的に高い傾向がある。また、パートナーとのコミュニケーションもよくとっており親密性・自尊感情(役割意識、自己確信)が高い傾向がある。

見出し語: 父親、乳児、夫立会い分娩、育児、愛着的行動、自尊感情

Study on the Perinatal Care and Parents Education Care of their infants with or without attending wife's births (3)

Yuko CHIGA, Sadao Horiguchi,
Kiyoko Mizuno, Takeko Mochizuki,
Hideko Sone, Reiko SATO,
Emiko Nakano, Masako Matsumoto

ABSTRACT

Purpose: Recently in Japan, the traditional nursing system or environment is changing rapidly, we study about the ways in which parents are the care of their infant and the circumstances of their daily lifestyle, and a change of consciousness or a role of a couple since their infant was born.

Contents of the investigation and its method: Taking care of infant, concern for infant (behavior of attachment--holding, playing, talking), parents own feelings when they are with their infants, adaptability to the change of their lifestyle, communication with a partner, relationship and intimacy with a partner, their own self esteem, etc. Mailing a questionnaire to the same objects three times at one month, 6 months, and one year after the birth.

The investigation objects are 320 couples who delivered their infants at The Aiiiku Hospital in Tokyo. This report is the investigation result of a questionnaire to the fathers whose infants are 1 years old. The total of the objects is 98.

Results: Tendency of the objects whose infants are 1 years old is that concerning and taking care of infant are good. Affirmative feelings to infant are also high. Comparing with the investigation after 1 month and 6 months concerns are increased, affirmative feelings become higher, but anxieties about infant are showing a tendency to increase. Considering with or without attending wife's birth: In the attending group wife's birth, concerning and taking care of infant are better, moving play with infant are better, and the scores of affirmative feelings are higher than those without attending group, and concerns for infant are showing a tendency to increase as a whole. And adaptability to the change of lifestyle is also higher, communication with a partner is better, and self esteem (role, confidence) tends to increase.

KEY WORDS: father, infant, attending wife's birth, care, attachment, self esteem

Ⅰ 目的

出産準備教育や乳幼児のための家族への援助のあり方を検討するための資料として、対象となる妊産婦とその夫（パートナー）に次のような観点で意識調査を実施する。核家族など価値観の著しく変化する現代の都市にあって、夫婦（カップル）が子どもの誕生という新しい家族の一員を迎える時は（子どもの誕生）、ライフサイクルにおける＜危機－ストレス＞である。この＜危機の時・経験＞を、親として夫婦としてそして一人の成人として、どのように受け止めているか。このプロセスにおける意識の変化や役割の取り方などを調査し考察する。

Ⅱ 調査内容と方法

この研究では、夫婦に郵送によるアンケート調査を実施し、子どもが誕生してから出生1年後までの夫婦の子どもへの関わり・育児・生活に対する適応性・パートナーとのコミュニケーション・自尊感情などについて考察する。1988年度より1990年度にかけて調査対象を同一にし、出生後1カ月時、出生6カ月時、出生1カ年時の計3回継続的に調査。

1 調査資料の分析視点（今年度の報告）

夫婦で参加する出産準備教育を受講し、かつ立会い分娩を経験した夫婦と、立会い分娩を経験をしなかった夫婦の間では、

- (1) 育児や生活に対する考え方などに違いがあるか、違いがあるとすればどのような特徴があるのかを出生1カ年時に調査をし検討。
- (2) また、出生後1カ月時・出生6カ月時の調査と比較検討。

今年度も前年度同様に父親（夫）の資料より報告。

2 対象

対象は夫婦で参加する出産準備教育を実施している東京－愛育病院で、1989年1月より出産をした産婦とその夫の320組。出生後1カ月のアンケートに回答のあった227組（夫婦で回答-208、妻のみ-19）に、子どもの出生1カ年時にアンケートを郵送。

出生1カ年時のアンケートの回答数は115例（回収率51%-227例に対して）。夫婦ともに回答のあったのは97例、妻のみ17例、夫のみ1例である。なお、今年

度の集計対象である夫の回答数の中には、前2回の調査に何れも無回答であった例は含まれていない。また出生1カ月時の回答のないものは6例のみであったので、集計及び分析の対象はほぼ同一とみなした。

3 調査内容

調査内容は出生後1カ月・6カ月・1カ年時を通して変わらないが、子どもの発達・成長によって親の関わり方などが次第に変化すると考えられる項目については、質問の表現をかえた。なお、6カ月時に新規項目を追加し、本文では（新）と表示。

(1) 子どもとの関わり

- ① 子どもとの関わり
あやしたり遊んだり話しかけること
- ② 子どもの世話
日常の世話、具合の悪い時などの世話
- ③ 子どもに関しての心配
子どものことが絶えず心配か、順調に育っているか心配かなど
- ④ 子どもと過ごしている時の気持ち

(2) 新しい家族がスタートしてからの生活への適応、自分自身の気持ちなどの変化

- ① 生活への適応
子どもが生まれてからの生活環境の変化に対する戸惑い
- ② 家事の協力、協力の仕方の自己評価
- ③ 妻とのコミュニケーション
妻に対する気持ちや態度。夫婦で共有する経験の変化とその受容の過程。夫婦での育児についての話し合いや相談など。
- ④ 自分自身の気持ち等の変化
妻との親密性、共感性、役割意識、自己確信、達成への意欲

Ⅲ 結果と考察

集計対象数などは表1に示す。前述した調査内容について、立会いの経験別に差異があるかどうかを検討。

なお、この出生1カ年時のアンケート回収数が少ないので、初めての子どもの父親かどうか（妻の経産別）によるクロス集計・分析は行わなかった。

＜集計の対象＞

夫から回答のあった98例の資料を集計対象とした。出生1カ月調査結果の対象である立会い群76例中37例(48.7%)、非立会い群151例中61例(40.4%)より回答。今回の回収率は43.2%。

＜子どもとの関わり＞

注)文中の表記は次のようにした

- *1M時－出生1カ月時の調査
- *6M時－出生6カ月時の調査
- *1Y時－出生1カ年時の調査

＜子どもとの関わり＞

(1) 子どもの遊び相手をしているか(表2-1)

① 1Y時の立会い群・非立会い群の比較

【よく遊んでいる】父親は、立会い群70%・非立会い群63%で両群間に差異はなく、多くの父親は子どもと遊んでいる。有意差はないが、【どちらかというと遊んでいない】父親が非立会い群では多く33%。

遊びの内容について見ると(表2-2)、親が積極的かつ主体的に関わり体を動かしながらの遊び(ボール転がし、泳ぎ、ダンスなど)が、立会い群の父親の方が有意に多く54%。母親の遊びの内容も、父親と同じく立会い群の方が有意に動きのある遊びが多く67%。

② 1M時・6M時・1Y時の両群の比較

両群ともに1カ月時にはあやしたりすることがなかった父親が6カ月時には減少し、あやしたり・遊んでいる割合が多くなってきている。両群とも【よく遊んでいる】割合が子どもの成長とともに増加している。しかし、【どちらかというと遊んでいない】父親は、両群ともにその割合が1Y時でまた増加の傾向を示す。

(2) 子どもに話しかけているか(表3)

① 1Y時の立会い群・非立会い群の比較

【よく話しかけている】が両群ともに多く、立会い群84%、非立会い群72%。

② 1M時・6M時・1Y時の両群の比較

1M時と6M時の比較では両群ともに【よく話しかけている】父親の割合が有意に増加したが、1Y時では6M時の状態とほぼ同傾向で特に増加していない。

小括－子どもとの関わり

両群ともに【遊ぶ・話しかけ】など子どもとの関わりは子どもの成長に添って増加。【遊びの内容】では、立会い群の方が有意に体を動かす遊びが多い。

また、立会い群の母親の方が非立会い群よりも有意に体を動かす遊びが多い。

＜子どもの世話＞

(1) 子どもの世話をしているか(表4-1)

① 1Y時の立会い群・非立会い群の比較

【よく・どちらかという世話をしている】割合は、両群とも多く90%・74%である。非立会い群では、世話をしていない割合が多い傾向がある。

世話の内容は(表4-2)にみるように【入浴】【おむつの替え】【衣服の着替え】【散歩】の項目で、立会い群の方が有意に世話をしている割合が多い。特に【おむつや着替え・食事の世話】など基本的な日常の世話を立会い群では80~60%以上の父親がしている。

② 1M時・6M時・1Y時の両群の比較

1年を通してみると、両群とも全体としては世話をしているが、【している】割合がしだいに減少傾向。両群とも【している】から【どちらかというとしている】に変化。

1M時から6M時では、世話の内容が両群ともに同傾向を示し、一緒に入浴-42%、おむつや衣服の着替え-37%、ミルクを飲ませたり・食事の世話-34%であったが、1Y時にはいろいろな世話をしている割合が増加している傾向がある。

(2) 具合の悪い時などの世話(表5)

① 1Y時の立会い群・非立会い群の比較

両群とも【何とかしてやりたいと思世話をする】が多く、立会い群73%・非立会い群56%。

② 1M時・6M時・1Y時の両群の比較

1年を通してみると、立会い群では【何とかしてやりたいと思世話をする】割合が増加し、【分からないので世話をしない】割合が減少。非立会い群でも【世話をする割合が増加し、【分からないから世話をしない】割合も一時有意に減少したが1Y時にはまた増加傾向。

小括－子どもの世話

子どもの世話をしているかどうかは、両群ともに1年間を通してみると大きな変化はなく、両群ともに世話をしている。だが、非立会い群では世話をしない割合が立会い群に比し多い傾向があり、1Y時には26%である。泣きやまない時の世話も両群ともに世話をしている。だが、【子どもが可愛そうなので世話をする】割合は、立会い群の方が1Y時に

い群76%・非立会い群61%。

② 1M時・6M時・1Y時の両群の比較

1カ年を通じて見ると、立会い群では「楽しい」という父親の割合が79～76%、非立会い群では67～61%で、有意な変化はみられない。

(2) 子どもと過ごしている時の気持ち(表9)

各項目を5段階評価に各項目の平均値を表に示した。

① 1Y時の立会い群・非立会い群の比較

「一緒にいたい」「守ってやりたい」の項目では、立会い群の方が非立会い群に比べ有意に平均得点が高い。

② 1M時・6M時・1Y時の両群の比較

立会い群は各項目で肯定的得点が次第に上昇。ところが、「イライラする」「犠牲になっている感じ」「煩わしい」「疲れを感じる」「負担にかじる」などの項目では、やや肯定的平均得点が1Y時には減少している。

(3) 子ども好きかどうか

① 1Y時の立会い群・非立会い群の比較

両群とも子どものことが「どちらかという好き・好き」という父親が多く立会い群89%・非立会い群88%である。

② 1M時・6M時・1Y時の両群の比較

6M時には両群ともに子ども好きの割合には有意の増減が認められないが、「どちらかという好き」の割合がやや増加している。しかし、両群ともに「どちらかという好きではない」割合もやや増加している。1Y時にはほぼ6M時と同傾向である。

小括

子どもと過ごしている時の気持ち—立会い群の父親が、「イライラ・疲れ・煩わしい・負担」などの項目で肯定的得点が1Y時でやや減少したのは、この群では世話をしたり関わりをもっている割合が多いので、その時の気持ちが率直に反映されていると思われる。しかし、子どもに対しては肯定的気持ちを感じその得点は高い。

立会い群の父親は否定的感じが起きても、子どもに対してはその否定的な感じ方・経験を投影していないと考えられる。

非立会い群では、各項目で肯定的得点が次第に減少傾向がある。しかし、「不安になる」「負担を感じる」「エネルギーを感じる」項目では、肯定的得点が上昇傾向にある。非立会い群では子どもに関わる

割合が立会い群に比べ低いので、不安や負担に感じることが少ないとも考えられる。また、子どもに感じる肯定的気持ちも立会い群に比べ各時期とも得点が低いことから、子どもへの関心が立会い群に比し低い傾向があると考えられる。

両群の間で子ども好きかどうかには差異がないが、子どもと接している時の肯定的気持ちが、立会い群のほうが高いことなどから、<子ども好き>であることが直接的に子どもへの肯定的感情・気持ちに結びつくものではないと考えられる。非立会い群は子どもへの関わり割合が低いので、子どものことを不安に感じたり負担に思うことが少ない傾向がある。

② ② 新しい家族がスタビリティ下してからの生活への適応
自分自身の気持ちの変化

<<生活への適応>>

(1) 生活の変化に戸惑いを感じているか(表10)

① 1Y時の立会い群・非立会い群の比較

両群とも「戸惑っていない」父親の割合が多く、両群ともに62%。

② 1M時・6M時・1Y時の両群の比較

6M時には1カ月時に比べ、立会い群では生活に対する戸惑いに余り変化がない。一方、非立会い群では「どちらかという戸惑っている」割合が有意に増加していたが、1Y時には両群ともに戸惑っている割合が減少。しかし、1カ年を通してみると両群ともに戸惑っているかどうかの割合に大きな変化はない。

<<家事の協力>>

(1) 家事などの協力をしているか(表11)

① 1Y時の立会い群・非立会い群の比較

立会い群は、「どちらかというとしている・している」割合が70%・非立会い群では44%で、有意に協力をしている割合が立会い群に多い。

② 1M時・6M時・1Y時の両群の比較

1カ年を通じてみると、立会い群では協力を「している」割合が次第に減少し、「どちらかというとしている」割合が増加している。また、6M時には協力を十分にしていない割合が増加して30%になったが1Y時には減少。

(2) 家事などの協力についての自己評価(表12)

① 1Y時の立会い群・非立会い群の比較

協力の自己評価は「当然のこと・自分としては努力してやっている」は、立会い群で62%・非立会い群では43%。非立会い群では「協力できない・しかたなくやっている」割合が多い。

② 1M時・6M時・1Y時の両群の比較

立会い群では「協力したいができなく残念」が6M時に有意に増加し25%から44%だった。だが、1Y時には24%に減少し協力している人の割合が増加。非立会い群は全体的には大きな変化がなく、協力できなく残念が1Y時に増加し、協力していない割合が多い。

■<妻とのコミュニケーション>

(1) 子どもの様子について妻と話しあうか

① 1Y時の立会い群・非立会い群の比較

両群ともに話しあっており、立会い群95%・非立会い群92%。

② 1M時・6M時・1Y時の両群の比較

両群ともに話し合っている割合が次第に増加。

(2) 妻が赤ちゃんのことで心配・不安な時に相談にのっているか

① 1Y時の立会い群・非立会い群の比較

両群ともに「相談にのっている」割合が多く、立会い群62%・非立会い群48%。

② 1M時・6M時・1Y時の両群の比較

両群ともに「相談にのっている」割合が増加。

(3) 育児の方針等について話しあうか(新-6M,1Y)

① 1Y時の立会い群・非立会い群の比較

両群ともに話しあっている割合が多く、立会い群84%・非立会い群74%。

② 6M時・1Y時の両群の比較

両群ともに話しあっている割合は同傾向。

(4) 育児の考え方や育児の仕方が妻と意見が違うことがあるか(新-6M,1Y)

① 1Y時の立会い群・非立会い群の比較

両群とも「どちらかというとない、ない」が多く、立会い群81%・非立会い群87%。

② 6M時・1Y時の両群の比較

両群ともに話しあっている割合は同傾向。育児の考えなどの違いは、<夫婦のしつけの方針が違う一厳格にあ

るいは自由にしたい><具体的なしつけ方が違う一トイレットトレーニングなど><夫婦の基本的な生活習慣が違う><将来の教育一受験など>と、多岐に渡っている。

(5) 夫婦で経験する生活経験の変化(表13)

① 1Y時の立会い群・非立会い群の比較

両群とも共有する経験が増えたきたと思っている割合が多く、立会い群78%・非立会い群80%。

② 6M時・1Y時の両群の比較

立会い群は1Y時で共有体験が減少してきた割合が増加。

■<自分自身の気持ち等の変化>

(1) 最近の自分自身について(表14)

① 1Y時の立会い群・非立会い群の比較

妻との親密性、共感性、役割意識、自己確信、達成への意欲等からなる項目を作成し、5段階評価で検討。

両群間の項目において平均得点に有為な差は認められなかった。立会い群では、役割意識(頑張りたい・やるぞという気持ち・家族の期待に応える)などの項目で非立会い群に比しやや得点が高い。

② 1M時・6M時・1Y時の両群の比較

1カ年を通じてみると、両群ともに得点に若干の上下はあるが、有意の差は認められない。

3回の調査で立会い群の平均得点が非立会い群に比し高い傾向であった項目は、以下の通りである。[やるぞという気持ちがわいてくる] [家族の期待に応えている] という役割意識の項目。[妻と悩みを・喜びを共有したい] という親密性の項目、そして[自信がある] [人のために力になれる] の自己確信の項目である。

小括

生活の戸惑いー戸惑いは子どもの誕生や成長によって、今までのライフスタイルに変化がおきて生じてくるものと考えられる。この調査では多くの父親が生活の変化を予測しており、全体的には戸惑いが少ないという結果になったと理解できる。

6M時にはやや戸惑う割合が増えることから、あらかじめ父親や家族が、子どもの発達や成長とそれに伴う生活についての知識や情報などを得て理解していることが望ましい。

立会い群における[妻との親密性・役割意識・自己確信]についてみると、非立会い群に比べ1カ年の

問一貫として平均得点が高い傾向がある。

IV まとめ

*なお、1M時及び6M時の報告は紀要の第25集・26集を参照されたい。

1 子どもの関わりや生活への適応について

(1) 子どもとの関わり—遊ぶ・話しかけ

両群ともに「遊ぶ・話しかけ」などは、子どもの成長に従い増加の傾向。「子どもの日常の世話」も両群ともにしている。

しかし、両群の間では遊びの内容や・世話の内容・泣きやまない時などの世話をする際の気持ちなどに違いがみられる。立会い群の方が働きのある遊びを多くしており、また子どもの排泄・食事・着替え・入浴など基本的な生活の世話もしている。

(2) 子どもと関わっている時の気持ち

子どもと関わっている時の気持ちについて3回の調査を検討。1M時では、肯定的項目において両群に有意差はなく高い得点であった。しかし、父親が子どもに「不安になる、犠牲になっている、煩わしい」と感じる否定的項目においては、立会い群の得点が有意に低い。

6M時では「不安」の項目が同じく有意に低い。また、「楽しい、エネルギーを感じる」という肯定的項目が有意に立会い群の得点の方が高い。

1Y時でも子どもに対する否定的気持ちの項目に有意差はないが、否定的な気持ちは立会い群の方が低い。また、「一緒にいたい」「守ってやりたい」という肯定的項目では有意に立会い群の方が得点が高い。

このように立会い群の父親に、保護的・養育的な気持ちが起きていることは、子どもとの遊びや世話など関わりあいが多いことが要因となっているのではないだろうか。立会い群を1カ年通じてみると、「犠牲になっている・煩わしい・疲れを感じる・負担に感じる」などの項目では肯定的得点が減少傾向にある。だが、これらの気持ちは子どもに対する気持ちには投影されていない。

前述したが、<子どもの好き>かどうかということよりも、積極的な関わりあいや、父親の子どもへの関心や気持ち(親の情緒性をポジティブなものにする)に影響を与えているのではないだろうか。

(3) 子どもに関する心配など

子どもが順調に发育している・気掛かりがあるかという項目でも、立会い群の方が非立会い群よりも心配などの割合が多い。これも子どもとの関わりがあることで関心が高くなり心配の要素も出てくるのであろう。

(4) 夫自身の気持ちの変化

立会い群における妻との親密性・役割意識・自己確信についてみると、非立会い群に比べ1年間一貫として平均得点が高い傾向にある。

(5) まとめ

両群を比較検討すると、立会い群では子どもとの遊び世話に関わる割合が多く、その関わりあいも子どもとの身体的ふれあいと動きのあるものが多い。また、子どもに対する気持ちも肯定的である。日常の世話や関わりによる疲労感などもあるが、その否定的気持ちは子どもに投影されていない。妻とのコミュニケーションも多い傾向があり、親密性の得点が高い。役割意識や自己確信の得点も高い。

非立会い群の父親も子どもの成長に伴いあやしたり遊ぶ割合が増えている。だが、子どもと関わっている時の気持ちなどには、1年間を通じての変化はみられない。また、发育のことなどに関する心配も多くはない。

以上より、子どもに対する関心・気持ちなどは、子どもとの関わりや世話によって変容していくのか、父親の人生観などによるものなのか、どのような要因によるものかについての分析は今後の研究課題である。

2 父親の関わりの意味—1歳前後

1歳前後から子どもたちは歩き始める。子どもたちの行動範囲は拡大され、母親からの心身の分離の練習が始まる。安定し心地よい母子関係も距離が近すぎると、密着による緊張関係をはらみ始める時期である。

この時期の父親(母親以外の世界の代表という意味)の関わりのもつ意味は、子どもが母から離れて生活する経験によって、母からの<距離>を取ることで世界を拡大して行くことを促進させ学ぶ機会が与えられることである。日常の世話にしても、母親と違う世話の仕方を通して<母親とは違う経験>を学ぶ。母親との共生関係から<臍緒>の切断に向けての練習に立会い・促進する働きが父親の役割にある。

R. Emdeが述べているように、基本的情緒が複雑で高次の構造を持つ情動の世界が発達するには、親子両者の情緒的応答性が大事であり、ポジティブな情緒が育つことがまず大切である。ポジティブな情緒が乳幼児を外界への注目や探索行動を、そして学習意欲を促進する作用となる。また、情緒により新しい行動や対応の仕方を身につけ、新しい関係が開かれて行くので、情緒は変容機能であり認識機能であると言われている。

母親の関わりより父親の関わりの方が活発で攻撃的で刺激的で、より身体的活動性のある遊戯的な関わりであることが多いということは知られている。そしてこのような関わりを体験する子ども（12カ月頃からは、歓喜と興奮と楽しみなど経験し、快の情緒を体験する。この体験は子どもの情動を刺激し、筋肉的感覚・身体的感覚を楽しませ身体自己感覚を培ない発達に影響をもたらす。父親の子どもの世話は、前述したように子どもに＜母以外の世界＞を経験させることでもあるが、父親の家事の協力も含めて、母親に心身のゆとりをもたらすことに影響を与え、ひいては母親の子どもへの関わりを安定したものにすることになる。母子関係の安定と、母子分離、子どもの適切で自発的な社会化への環境作りの基盤となる。

この意味においても、父親の子どもへの関わりは第1に、母親以外の世界への興味・関心を引き出し、探索を援助し、この時期に大切な母子分離のを円滑に進める働きをする。また、様々な要因を統合した情緒の機能を拡大し心の発達に影響を与える。第2には、間接的ではあるが母親の心身のゆとりと安定を支えることにより、良い母子関係に影響を与える。

おわりに

当然のことであるが、親にとって心配や不安がないことが望ましいのである。だが、＜心配や不安を取り除くための情報や知識の提供や教育＞という発想には留意が必要である。疑問や心配や不安というものは、知らないことから起きることもあるが、積極的な関心からも生じることが多い。今報告のように主体的な関わりあいの中から問題（problem）や心配が生じてくる場合もある。

出産・育児に関する学級や教育では、問題提起者である親自身が考え・選択し・行動していけるような情報の提供や援助過程が大切であろう。

参考文献

- 1) Call, J. D., Galenson, E., Tyson, R. L., (by ed.) : Frontiers of Infant Psychiatry, 1983, Basic Books, Inc. Publishers, New York.
小此木啓吾監訳：乳幼児精神医学，1988，岩崎学術出版。
- 2) Emde, R. N., : Reflections mothering and on reexperiencing the early relationship experience. Infant Mental Health Journal, 9 (1), 4-9, 1988.
- 3) 小此木啓吾他：周産期の臨床と父親の役割，周産期医学，18 (1)，115-119, 1988.
- 4) D. B. リン（今泉信人他訳）：父親—その役割と子どもの発達，1986，北大路書房

* 訂正とお詫び

紀要25・26集の報告の＜表＞に誤植がありましたのでお詫びを申し上げます。

訂正の箇所は＜1カ月調査の非立会い群の％値の数字＞で、本報告で訂正をいたしました。

統計はコンピューターにて処理をし、紙面の数字を使用しておりませんので、検定の結果などには影響はありません。

千賀他：夫立会い分娩の経験別に見た育児への関わりについて(3)

(表1) 集計の対象

	回答の内訳	立会い群	非立会い群	計
出生1カ月時(1M)		76例	151例	227例
出生6カ月時(6M)	夫婦で回答あり	48 63.2%	83 55.0%	131
	妻のみ回答あり	3 3.9%	9 6.0%	12
	夫婦共回答なし	25 32.9%	59 39.1%	84
出生1カ年時(1Y)	夫婦で回答あり	37 48.7%	60 39.7%	97
	妻のみ回答あり	5 6.6%	12 7.9%	17
	夫のみ回答あり	0	1 0.7%	1
	夫婦共回答なし	34 44.7%	78 51.7%	112

注) * 出生1カ月時の集計対象資料(夫) -- 227例
 * 出生6カ月時の集計対象資料(夫) -- 131例
 * 出生1カ年時の集計対象資料(夫) -- 98例 (印)

(表3) 話しかける

%表示	立会い群			非立会い群		
	1M	6M	1Y	1M	6M	1Y
よくしている	59.2* ¹	83.3* ¹	83.8	46.4* ²	69.9* ²	72.1
どちらかという している	0.3	12.5	16.2	34.4	25.3	24.6
どちらかという していない	3.9	4.2		9.3	3.6	3.3
していない	0.1	-		-	-	-
N. A	5.3	-		9.9	1.2	-

注) *¹ 立会い群の1カ月時と6カ月時- χ^2 P<0.05
 *² 非立会い群の1カ月時と6カ月時- χ^2 P<0.05

(表2-1) あやしたり・遊ぶ

%表示	立会い群			非立会い群		
	1M	6M	1Y	1M	6M	1Y
よくしている	50.0	60.4	70.3	40.4	47.0	62.8
どちらかという している	32.9	33.3	10.8	37.1	44.6	4.9
どちらかという していない	10.5	6.3	18.9	12.6	8.4	32.8
していない	1.3	-	-	-	-	-
N. A	5.3	-	-	9.9	-	-

(表4-1) 子どもの日常の世話

%表示	立会い群			非立会い群		
	1M	6M	1Y	1M	6M	1Y
よくしている	47.4	43.8	35.1	31.8	31.3	23.0
どちらかという している	34.2	41.7	54.1	33.8	47.0	50.8
どちらかという していない	9.2	6.3	10.8	19.2	16.9	26.2
していない	3.9	8.3	-	5.3	4.8	-
N. A	5.3	-	-	9.9	-	-

(表2-2) 1カ年時-父母はどんな遊びをしているか

遊びの内容 %表示	立会い群		非立会い群	
	父親	母親	父親	母親
体を動かす遊び(室内・屋外) ボール、ダンス、泳ぎ、高い高い お馬さんごっこ	54.1* ¹	66.7* ²	21.3* ¹	47.2* ²
公園での遊び(屋外) 散歩、砂、滑り台、ブランコ	37.8	52.4	26.2	50.0
ごっこ遊び等(室内) ママごと、電話、ぬいぐるみ、 積み木	27.0	47.0	18.0	51.4
絵本の読み聞かせ・歌	18.9	61.9	21.3	58.3

注) *¹ 立会い群と非立会い群の父親- χ^2 P<0.01
 *² 立会い群と非立会い群の母親- χ^2 P<0.05

(表4-2) 1カ年時-父親はどのような世話をしているか

世話の内容	%表示	立会い群	非立会い群
一緒に入浴、入浴の手伝い	*183.8	*162.3	
おむつを替える	*178.4	*152.5	
食事を食べさせる	64.9	49.2	
散歩に連れて行く	*164.9	*142.6	
衣服を着替えさせる	*162.2	*137.7	
むづかった時の世話	35.1	31.1	
寝かしつける	32.4	29.5	

注) *¹ 立会い群と非立会い群間で- χ^2 P<0.05

(表-5) 具合が悪い時や泣きやまない時の世話

%表示	立会い群			非立会い群		
	1M	6M	1Y	1M	6M	1Y
世話をする	10.5	66.7	73.0	31.8	57.8	55.7
妻が大変なので 世話をする	27.6	31.3	18.9	33.8	33.7	26.2
わからないので世 話をしない	35.5* ¹	2.1* ¹	5.4	19.2* ²	8.4* ²	16.4
関わりたくないの で世話をしない	21.1	-	-	5.3	-	1.6
N. A	5.3	-	2.7	9.9	-	-

注) *¹ 立会い群の1カ月時と6カ月時— χ^2 P<0.01
*² 非立会い群の1カ月時と6カ月時— χ^2 P<0.01

(6) 子どものことが絶えず心配か
(1カ月時—くしゃみ等ちよつたしたことが心配)

%表示	立会い群			非立会い群		
	1M	6M	1Y	1M	6M	1Y
心配になる	31.6	10.4	37.8	24.5	19.3	42.6
どちらかという 心配になる	31.6	35.4	40.5	38.4	19.3	39.3
どちらかという 心配にならない	23.7	20.8	16.2	22.5	42.2	16.4
心配にならない	7.9* ¹	33.3* ¹	5.4* ¹	4.6* ²	19.3* ²	1.6* ²
N. A	5.3	-	-	9.9	-	-

注) *¹ 立会い群— χ^2 P<0.01
*² 非立会い群— χ^2 P<0.01

(7) 順調な発育かどうか心配か

%表示	立会い群			非立会い群		
	1M	6M	1Y	1M	6M	1Y
心配になる	36.8	22.9	32.4	52.3	34.9	41.0
どちらかという 心配になる	36.8	43.8	51.4	27.2	38.6	29.5
どちらかという 心配にならない	11.8	22.9	8.1	7.9* ¹	24.1* ¹	29.5
心配にならない	9.2	10.4* ²	8.1	2.0	2.4* ²	-
N. A	5.3	-	-	10.6	-	-

注) *¹ 非立会い群— χ^2 P<0.01
*² 6カ月時の立会い群と非立会い群間で— χ^2 P<0.05

(8) 子どもの相手をしたり・世話をするのが楽しい

%表示	立会い群			非立会い群		
	1M	6M	1Y	1M	6M	1Y
楽しい	78.9	77.1	75.7	66.9	60.2	60.7
どちらかという 楽しい	15.8	22.9	21.6	19.9	33.7	32.8
どちらかという 楽しくない	-	-	-	3.3	4.8	4.9
楽しくない	-	-	2.7	-	1.2	-
N. A	5.3	-	-	9.9	-	1.6

注) *¹ 非立会い群— χ^2 P<0.01
*² 6カ月時の立会い群と非立会い群間で— χ^2 P<0.05

(9) 赤ちゃんとお過ごしている時の気持ち

	立会い群			非立会い群		
	1M-初産	6M-初産	1Y-初産	1M-初産	6M-初産	1Y-初産
いとおいしい	1.7	1.75	1.85	1.7	1.87	1.70
不安になる	* ¹ 1.3	* ² 1.54	1.47	* ¹ 0.8	* ² 1.06	1.13
イライラする	1.4	1.42	1.22	1.3	1.22	1.05
一緒にいたい	1.6	1.58	* ⁴ 1.72	1.4	1.49	* ⁴ 1.40
自信がない	1.4	1.63	1.60	1.3	1.49	1.36
気持ちがなごむ	1.5	1.67	1.61	1.5	1.56	1.44
犠牲になっている感じ	* ¹ 1.7	1.43	1.47	* ¹ 1.3	1.41	1.20
楽しい	2.0	* ³ 1.81	1.84	1.6	* ³ 1.66	1.76
可愛い	1.9	1.88	1.83	1.8	1.91	1.63
煩わしい	* ¹ 1.6	1.27	1.31	* ¹ 1.3	1.34	1.26
守ってやりたい	1.8	1.83	* ⁵ 1.92	1.6	1.66	* ⁵ 1.50
疲れを感じる	0.7	0.63	0.56	0.6	0.71	0.67
喜びを感じる	1.7	1.78	1.81	1.6	1.63	1.63
負担を感じる	1.5	1.35	1.31	1.3	1.34	1.42
エネルギーを感じる	1.6	* ² 1.79	1.75	1.3	* ² 1.48	1.62
あとには引けない感じ	0.4	0.15	0.24	0.5	0.23	0.44

注) 5段階評価得点 (+2,+1,0,-1,-2)

注) 否定的項目の得点は、高得点に従い肯定的反応として換算

注) *¹ 1M時の立会い群と非立会い群間で
T検定危険率5% (片側) 有意

注) *² 6M時の立会い群と非立会い群間で
T検定危険率5% (両側) 有意

*³ 6M時の立会い群と非立会い群間で
T検定危険率5% (片側) 有意

*⁴ 1Y時の立会い群と非立会い群間で
T検定危険率5% (両側) 有意

*⁵ 1Y時の立会い群と非立会い群間で
T検定危険率1% (両側) 有意

千賀他：夫立会い分娩の経験別に見た育児への関わりについて(3)

(10) 生活の変化に戸惑いを感じているか

%表示	立会い群			非立会い群		
	1M	6M	1Y	1M	6M	1Y
戸惑っていない	61.8	66.7	62.2	47.0	62.7	62.3
どちらかという 戸惑っていない	26.3	25.0	35.1	33.8	21.7	27.9
どちらかという 戸惑っている	3.9	8.3	2.7	7.3* ¹	14.5* ¹	6.6
戸惑っている	1.3	-	-	2.0	-	3.3
N. A	6.6	-	-	9.9	1.2	-

注) *¹ 非立会い群の1カ月時と6カ月時- χ^2 P<0.05

(11) 家事などの協力

%表示	立会い群			非立会い群		
	1M	6M	1Y	1M	6M	1Y
している	38.2	31.3	24.3* ¹	25.2	21.7	16.4* ¹
どちらかという している	32.9	35.4	45.9* ¹	30.5	24.1	27.9* ¹
どちらかという していない	15.8	31.3	18.9	23.2* ²	39.8* ²	39.3
していない	6.6	2.1* ³	8.1	9.9	14.5* ³	16.4
N. A	6.6	-	2.7	11.3	-	-

注) *¹ 1Y時の立会い群と非立会い群間で- χ^2 P<0.05
(当然の事・努力している人を合計し両群を比較)
*² 非立会い群の1カ月時と6カ月時- χ^2 P<0.05
*³ 6カ月時の立会い群と非立会い群間で- χ P<0.05

(12) 家事などの協力についての自己評価

%表示	立会い群			非立会い群		
	1M	6M	1Y	1M	6M	1Y
当然のこと	36.8	25.0	29.7	23.8	28.9	19.7
努力している	27.6	25.0	32.4	19.9	15.7	23.0
協力ができなく残念	25.0* ¹	43.8* ¹	24.3	30.5	38.6	42.6
仕方なく やっている	3.9	4.2	5.4	4.0	8.4	6.6
その他	-	2.1	2.7	8.6	6.0	6.6
N. A	6.6	-	5.4	13.2	2.4	1.6

注) *¹ 立会い群の1カ月時と6カ月時- χ^2 P<0.05

(13) 夫婦で共有する生活経験の変化

%表示	立会い群			非立会い群		
	1M	6M	1Y	1M	6M	1Y
とても増えてきた	30.3	31.3	21.6	25.2	28.9	19.7
どちらかという 増えてきた	52.6	52.1	56.8	45.0	41.0	60.7
どちらかという 減ってきた	3.9	8.3* ¹	18.9	13.2	22.9* ¹	16.4
減ってきた	1.3	-	-	0.7	-	1.6
その他	-	2.1	2.7	1.3	-	1.6
N. A	11.8	6.3	-	14.6	7.2	-

注) *¹ 6カ月時の立会い群と非立会い群間で- χ P<0.05

(14) 最近の自分自身について

	立会い群			非立会い群		
	1M-初産	6M-初経	1Y-初経	1M-初産	6M-初経	1Y-初経
妻と一緒にいたい		1.45	1.38		1.37	1.50
妻と離れると 自分に確信がある		* ¹ 0.30	0.11		* ¹ -0.15	0.43
自分に誇りがある		1.28	1.03		1.11	1.00
決断ができる		* ¹ 1.17	0.78		* ¹ 0.90	1.00
責任がもてる		1.45	1.00		1.33	1.30
人生の目標がある		1.51	1.43		1.49	1.47
うまくやれる自信		1.09	0.84		1.01	1.00
人と気持ちを共有したい		0.55	0.66		0.71	0.62
話しを率直に聞ける		0.36	0.29		0.17	-0.02
頑張りたい		0.96	0.97		1.10	1.13
やるぞという気持ちがわ いてくる		1.50	1.53		1.43	1.49
人のために力になれる		1.30	1.39		1.16	1.25
思いやりある		1.04	1.03		0.97	0.90
家族の期待に応えている		0.96	0.97		1.01	0.85
使命感がある		0.85	0.80		0.81	0.64
悩みを共有したい		* ² 0.96	0.82		* ² 0.89	1.00
喜びを共有したい		1.33	1.36		1.20	1.33
		1.66	1.58		1.50	1.50

注) *¹ T検定危険率5% (片側) 有意
*² χ^2 P<0.05、(-2)の評価をした割合が非立会い群に多い